

サンゴ増殖体験①

「サンゴ、サンゴ礁についての話」

「漂着物・太平洋で見つけたもの」

講師：鹿児島大学

藤枝繁先生（特任教授）

松岡翠さん（技術職員）



茶花小学校 5年生

那間小学校 4、5年生

与論小学校 5年生

令和2年度与論町海洋教育

08号

昨年度から与論町教育委員会では日本財団・東京大学海洋教育センター・笹川平和財団海洋政策研究所からの支援を受け海洋教育パイオニアスクールを導入しました。町内の小・中・高等学校が連携して行う「地域連携型」というスタイルで海を通じた学びの活動を行っています。与論町教育委員会を含め全国10の地域が「地域連携型」で海洋教育パイオニアスクールプログラムに参加しています。

12月11、12日、与論町漁業協同組合の研修室にて、町内3小学校対象に海洋教育授業を実施して頂きました。鹿児島大学松岡翠さん（技術職員）、藤枝繁先生（特任教授）、与論町漁業協同組合、共和コンクリート工業（株）のご協力で「サンゴやサンゴ礁」、「漂着物」、「海の恵み」について学び、その後サンゴ増殖体験をさせて頂きました。



鹿児島大学 松岡翠さんによる「サンゴ、サンゴ礁についての話」の授業では、「サンゴのからだ」、「成長」、「種類」、「役割」など沢山の内容を学びました。普段から授業で学ぶ機会があったり、海と触れ合ったりしているからか、松岡先生が驚かれるほど子どもたちの知識は豊富で、クイズにも次々と答えていました。

授業で特に印象的だったのは、サンゴと一緒に生活している生き物、生態・行動が気になる生き物を紹介してもらいました。

授業の最後には、海の中での観察ポイントも教えて頂きました。次回海に行く際は、これまでと違った視点で観察できそうです。

続いて、鹿児島大学 藤枝繁先生による漂着物についてのお話「太平洋で見つけたもの」。授業では先生がこれまでに見つけた漂着物「宝物」を紹介してくれました。初めて見るものもあり、子どもたちは興味深そうに見ていました。

その後ミッドウェー島で見てきたことを紹介して下さいました。ミッドウェー島での漂着物の様子や、環境、生き物に与える影響などです。漂流物の漂流シミュレーションの画像を見ながら、日本から流れた海洋ゴミがどこにどのように流れ着くのか知ることができました。そして、時間を経てプラスチックがマイクロプラスチックになっていく過程も知ることが出来ました。マイクロプラスチックの回収の難しさ、環境、生き物に与える影響を知り、与論島でも沢山の方が取り組んでいる「海洋ゴミ回収」がいかに大切なかをより理解することができました。また、授業は真面目なお話に加え、藤枝先生の楽しいお話も交えて、笑い声の絶えない時間となっていました。



取材：

与論町海洋教育推進協議会事務局

取材日：2020.12.11 & 12